

令和2年度第1回 鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

日時 令和2年12月10日(木) 14時00分～

場所 市共済会館3階 大会議室

出席者 委員11名、関係課・事務局職員 7名

欠席者 委員 5名

傍聴者 1名

概要

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 審議会委員の自己紹介

4. 会長及び副会長の選出

会長に阪根健二委員(鳴門教育大学大学院教授)が、副会長に山本哲生委員(四国大学准教授)が選任されました。

5. 審議会への諮問

市教育委員会から審議会に対して諮問を行いました。

6. 議事

(1) 見直しにかかるスケジュールについて

今後の審議の進め方やスケジュールについて事務局から説明を行いました。

(会長)

今年度、新たに策定予定としている、『鳴門市教育大綱』の内容に即した見直しにしなければならず、今後、市長部局で開催される総合教育会議での審議の状況を見ながら、本計画の見直しについて審議していくこととするが、よろしいか。

(委員)

異議なし

(2) 『第二期鳴門市教育振興計画』の取組状況について

「第二期鳴門市教育振興計画 基本計画取組状況表」を基に、現時点での取組状況と今後の予定について事務局から説明を行いました。

(会長)

皆さんのご意見を伺いながら、今後の教育大綱を踏まえ、答申まで進めてまいりたい。
事務局の説明への質問や、見直しに当たり加筆・修正すべき箇所等、委員の皆様のご意見を伺いたい。

(委員)

来年4月以降に、現在の役職が変わった場合に、この審議会の委員も交代するのか。

(事務局)

そのような場合は、引き継ぎを行い、交代していただくことになる。

(委員)

PTAで奉仕活動をさせていただいたが、第一中の新しい校舎は大きすぎて、子どもたちや先生方だけでは、掃除の手が行き届かないように聞いている。清掃用具の購入で対応できることもあると思うが、時には業者に依頼するようなことも、今後は考えなくてはならない時代であるかもしれない。計画に盛り込むべき内容かどうかは別にして、意見として申し上げたい。

(委員)

これからの鳴門を背負っていく子どもたちの教育の方向性を考えることは大切である。タブレット端末が一人一台化しようとしているが、サイバー犯罪などに巻き込まれないような、しっかりとした知識と技能の指導が必要になってくる。

(会長)

鳴門教育大学には情報化の研究を行っている教員もおり、市教育委員会としてはそのような専門家とも連携しながらしっかりと進めていただきたい。

(委員)

コロナ禍の中、学校との連絡や授業の遠隔受講にはタブレットが必要不可欠であり、一人一台ずつの対応してくれることが、保護者としてありがたい。

(会長)

一人一台端末の基になっている「GIGAスクール構想」について、事務局の説明をお願いしたい。

(事務局)

「GIGA スクール構想」は、本来であれば5カ年計画での構想であったが、コロナ禍の状況で急遽前倒しされて実施することとなった。鳴門市でも今年度中には、全小中学校において一人一台ずつタブレットが配備される予定となっている。

(委員) 学校評議員の評価制度では、評価結果をウェブサイト等で公開することとなっているが、このサイトで公開しているのか。

(事務局)

学校ごとに、ホームページや文書等の形で公開しており、市教委で取りまとめて公開しているものではない。

(委員)

自分の学校の情報だけでなく、他校のよい実践についても情報が欲しい。教育委員会において全体的な評価を把握することも考えていただきたい。

(事務局)

学校評価については、保護者や児童・生徒からの評価を学校運営に生かしていくものであり、相対評価のように学校を比べるものではないと考えている。

しかし、他校と比較し、よい取組について自校に取り入れるということも有意義であるとも思うので、そのような仕組みの導入についても検討したい。

(委員)

図書館のリニューアルや図書館サポーターを各校に配置しての読書活動の推進など、とても読書環境がよくなって感謝している。今後については、一般市民の利用実態調査などで市民の声を十分に把握しながら、図書館の運営に力を入れて欲しい。

(事務局)

読書活動については、今後策定する「子どもの読書活動推進計画」に基づき、児童・生徒のアンケート調査を実施することとしているが、それと同時に一般の市民のニーズがどこにあるのか、さらなる調査等についても考えてまいりたい。

(委員)

学力向上について、様々なメディアでも取りざたされているが、徳島県は全国平均よりも低いように聞いている。本市についても学力向上を目指した取組を進めて欲しい。

(会長)

GIGAスクールやコミュニティ・スクールなど、教育改革が急激に進んでいる時代であり、学力向上の観点からもチャンスであると考えられるのではないかと。

(委員)

本審議会に以前から関わらせていただいているが、鳴門市教育大綱の「共育」という言葉に込められた思いを共感している。また、計画的に学校の施設設備などの充実を進めていただき、子どもたちが快適に学校生活を送らせていただいていることを、保護者としてありがたく思っている。

(委員)

公民館で行っている短期講座は、生涯学習人権課の方々にも力を入れていただいております。板東公民館の歴史講座などはとても人気があり好評である。また、施設について様々な配慮いただき、長期的に考えていただいているが、桑島公民館や栗田公民館についても今後ともよろしくお願ひしたい。

また、外国語教育や道徳教育の現状がどのようになっているのか伺いたい。

(事務局)

外国語教育については、以前より重点的に行っている。ALTを配置して実践的な英語を学ぶ機会を確保し、グローバル社会で生きていく子どもたちに必要な英語力の向上が重要な課題であると考えている。英語検定の補助金等についても引き続き充実をさせていきたい。

道徳教育については教科化されたこともあり、各校において指導要領に基づいて教育を進め、取り組んでいただいている。

(委員)

文化財の活用、継承についてお願ひしたい。最近では、国の特別天然記念物であるコウノトリが注目されているが、コウノトリそのものに視点を当てるのではなく、コウノトリが鳴門市に定着している理由に着目して欲しいと思う。鳴門市に豊かな生態系があるからこそ定着しているのであって、そのすばらしい自然の価値を掘り起こし、体験できるようなものにしてもらいたい。

また、身近な校庭の草や木にも豊かな生態系があるものである。特別な場所に行かなくても、学校の草木を見るだけですばらしい体験ができる。今や身の回りには多くの外来種の草木が生育している。身の回りの草木に目を向けてもらうことで、すばらしい体験ができる。そのことについても子どもたちに知ってもらいたいと考え、先日、徳島県の帰化植物の図鑑を小中学校に配布した。

加えて、大麻山には市指定の天然記念物の大杉がある。今回この大杉の愛称を公募したところ240もの応募があり驚いた。市民や子どもたちが、鳴門の自然や生態系に関心を持つような取組を考えて欲しい。

(会長)

鳴門市の自然や土地柄、風土などの「鳴門市のよさ」を大切に、郷土に誇りを持つような、ふるさと学習、ふるさと教育を考えてもらいたい。

(副会長)

子どもを取り巻く環境が急激に変化する中で、市役所と市教委が協力しながらよく取り組んでくれている。昨今では、ICTなどの新しい教育がたくさん入ってきている。また、特別な支援を必要とする子どもの数も多くなってきており、保護者の認識も以前とは変わってきている。学校現場や市教委では、それらへの対応が大きな課題になっていると思う。

また、少子化対策などについても、市長部局等と連携して、例えば市街化調整区域の指定見直しなどの方策により、若い人が入ってくる「共育のまち鳴門」を目指して欲しい。

エアコンや洋式トイレの設置等、学校施設の充実についても、できるだけ早くお願いしたい。

(事務局)

エアコンについては、幼稚園、小・中学校ともに、現在使用している普通教室には全て設置済みである。さらに、特別教室についても、令和3年度中には完了する予定である。トイレの洋式化については、耐震化工事と並行して順次行ってきたが、今後も計画的に進めていく予定である。

(会長)

防災教育の新たな取組として、鳴門市では全国に先駆けてフェーズフリーに取り組んでいるが、詳しく説明をお願いしたい。

(事務局)

鳴門市では、全ての幼稚園、小中学校において、それぞれの地域や園・学校の実情に即した防災教育にしっかりと取り組んでいただいている。しかし、日常生活を送りながら、備え続けることは簡単ではないとも、一般的にはいわれている。

その点、フェーズフリーは「日常」と「非常時」の垣根を取り払い、防災を特別なこととせず、「日常」にも「非常時」にも役に立つ考え方である。そのため、うまく取り入れることで、毎日の教育活動では学力向上に、非常時には防災についてのスキルの習得として役立てることができると考える。

このような、防災を特別なこととしないフェーズフリーを鳴門市内の学校教育に浸透させ、「自分の命は自分で守る」ことのできる子どもを育てていくことを目指している。

また、フェーズフリーを学校に導入するためのガイドブックとして、現在「フェーズフリーfor スクール」を作成している。これを、今年度内には印刷し、市内全教職員に配布することで、さらなる浸透を目指したい。

(会長)

現在の学校では時間の余裕がないため、防災教育を充実させようとしても、そのための新たな時間を設定することは難しい。その点、フェーズフリーは現在行っている教科教育や活動の中に防災の要素を入れるというものであるため、新たな特設の時間を必要としないという考え方である。

全国的にも学校関係で取り組んでいるところはなく、先進的な取組であり、鳴門市の特色としても期待するところである。

(会長)

今日は委員の皆さんのご意見をお聞きしたが、今後については鳴門市教育大綱の状況を見ながら、4月以降に第2回の審議会を開催し、本振興計画見直しへのご意見を改めていただければと思う。
これをもって、本日の審議会を閉じることとする。

7. その他

次回の審議会は、教育大綱の審議状況を見ながら、適切な時期に開催することを確認しました。

8. 閉会